

## 総合生存学館

I	教育の水準	.....	教育 25-2
II	質の向上度	.....	教育 25-4

## I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

### 分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学生1名に対してメンター教員（教育指導教員を兼ねる）、研究指導教員、研究指導委託教員の3名の教員が指導する複数指導教員制度を実施しており、進級審査（Qualifying Examination）や学位論文作成等について指導・助言する定期的な面談により、学生への教育・研究指導に取り組んでいる。
- 授業内容の改善のため、必修科目の「総合生存学概論」の担当教員による授業参観のほか、入学者選抜試験の模擬講義考査で、あらかじめデモンストレーションを行い講義内容や評価項目を検討するなど教員同士の相互の授業評価を実施している。
- 教育力の向上のため、専任教職員で開催する思修館懇話会において、毎回発表者を変えて各教員の研究テーマの発表や意見交換を行っている。平成25年度から平成27年度に計29回開催し、教員と学生を合わせて平均14.7名が参加しており、平成27年度に成果をまとめた『総合生存学—グローバル・リーダーのために』を出版している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 老人福祉施設でのボランティア活動、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊短期ボランティア隊員としてのバングラデシュでの活動等、国内外のインターンシップを実施している。これらの活動により、平成27年度にJICA、バングラデシュ農村開発公社と協定を締結し、「リンクモデルを通じたコミュニティ開発事例調査プロジェクト」を実施し、学生がバングラデシュ農村開発公社へ事例調査に基づいた提言を行っている。
- 学生が24時間自主学習ができる2か所の合宿型研修施設を整備しており、オフィスアワーを毎日設定し、専任教員が学生の学習、研究及び生活の相談に応じる体制を整備している。また、平成26年度に3か所目の合宿型研修施設を設置し、学生の自学自習のためのラーニング commons のほか、ワークショップスペースや参考図書を配架した書架、IT環境を備えた学習環境を整備している。
- 複数指導教員制度において、学生、メンター教員及び研究指導教員の三者面談を月1回以上行い、研究の進捗状況や教育課程の履修状況を確認するほか、

研究指導委託教員を含めた四者面談を年3回以上行い、研究の進捗状況及び「京都大学大学院思修館プログラム」の履修状況を確認している。また、一回当たり2名の学生による学生研究進捗状況の発表会を週1回開催している。

以上の状況等及び総合生存学館の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 4年次におけるフィールドワーク（海外武者修行）の実施を念頭に置き、TOEFL-iBTによる英語の習熟度を確認している。平成25年度から平成26年度の入学者におけるTOEFL-iBTの入学時と2回目以降の最高点の平均点を比較すると、69.6点から85.1点となっている。
- 平成25年度から平成27年度における学生の学会発表数は平均8.0件、論文発表数は平均4.0件となっている。
- 平成26年度における入学者に対する進級者の割合は、2年次生の80.0%が3年次へ、1年次生の87.5%が2年次へ進級している。

以上の状況等及び総合生存学館の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

## Ⅱ 質の向上度

### 1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 通常の授業科目や研究指導科目に加えて、国内外インターンシップ、産官連携特別セミナー、共通基盤科目、フィールドワーク（海外武者修行）、プロジェクトベースリサーチ等を実施している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学生の英語活用能力の向上を図る取組等により、平成 25 年度から平成 26 年度の入学者における TOEFL-iBT の入学時と 2 回目以降の最高点の平均点を比較すると、69.6 点から 85.1 点となっている。

以上の第 2 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果を勘案し、総合的に判定した。